

東北大学同窓会北海道連合会

会長就任あいさつ

濱田 康行



この度の北海道同窓会連合会総会には、一年前から決まっていた海外出張と重なり出席できず、皆様にはご迷惑をおかけすることになり誠に申し訳ありません。

富岡会長及び幹事会のご指名、ご推薦により、囘らずも会長の任を預かることになり、その責任を痛感しているところでございます。

思えば佐藤源助元幹事長をはじめとする歴代の方々の同窓会への情熱を拝見しておりますと、私ごときに大役が務まるものかとの思いが強いのですが、同窓会会員の皆様のご賛同と今後の協力が得られると確信しお引き受けいたします。

この機会に書面で失礼とは存じますが、目標をいくつか挙げさせていただきます。

- ①総会、及び様々なイベントへの参加者を増やすこと。どのような内容にしたらこの目標が達成できるかを考えたいと思います。
- ②①と関係しますが、若いメンバーの参加を増やしたい。若い同窓生がどんな事を同窓会に期待しているのかを考え、ニーズに応えていきたいと思います。
- ③同窓会の財政をより強固にする。富岡前会長始め役員皆さんが頭を悩まされた事の一つが財政です。いかなる事業、イベントをするにも一定の財源が必要です。支出は前払いが生じますから尚更です。会費については賛否がありますし、その場での徴収では不安定です。寄付金もしっかりした趣旨が立ってなければ集まりません。

以上三つの目標を、皆様の知恵をお借りして何とか達成したいと考えております。

人生は長い。その長い人生の内、たった四年間一緒にいた、同じ大学にいただけなのに、こうして生涯の友として共に在ることができる。

同窓会というのは誠に有難いものです。それはタイムトラベルのための夢の乗り物です。

人々の絆が年々薄まっている中で、同窓会は人々をたとえ一時でもつなぎ合わせる事ができるのです。

孤独が深まるこの世のなかで、実は人々はつながりを、それも”緩い“つながりを求めているのだと思います。

同窓会は現代が失いつつあるものを取り戻す装置でしょう。

東北大学は現代の風潮から見れば、かなり地味な大学です。仙台も最近は随分変わりましたが、私たちの心の内にある情景はどこか落ち着いた風情でした。

同窓会は東北大学という大学、仙台という街にぴったりと同調します。だから、きっと発展することができると思います。

その昔、大した強い意志もないまま何となく東北大学に入学し、大した努力もしないままに卒業した私ですが“本当によかった”と思います。

勿論ひそやかな誇りとともに。

2019年11月8日